

芦屋歴史紀行

その三百三十八

芦屋歴史の里移転開館20周年
記念特別展

「妖怪！百鬼夜行／海にひそむもののけたち」より①



△妖怪展イメージ

名をつけ、少しでも理解しようとしたのでしよう。

自然や闇、わだつみ（海）に対する畏怖や人の心にひそむ猜疑心・不安が妖を生み出しました。逆に言うと、

原始、明かりは炉ではぜる炎だけであつた時代、夜の闇は人に畏れを教えました。今はいつでもどこでも何かしら明かりがある生活を送る私達ですが、停電した夜や、月や星が隠れた夜などは、ふだん見慣れた場所でさえ、よそよそしく人の支配を拒否しているかのようです。

これに対して、中世の絵巻物に登場する不思議な妖怪たちの行列も、百鬼夜行と呼びます。そのほとんどは付喪神と呼ばれる古びた道具が変化した姿をしています。職人が道具を作り、庶民が僅かながらも初めて自分の家財道具を持ち始めた、中世という時代が生み出した怪しげな妖怪の姿を見ることができます。星月夜でも、寄せては返す海面を見続けると水底に引き込まれそうな錯覚に襲われます。ましてや朔月や新月の頃ならなおさらです。現代の我々ですら闇や海に対して不安を持つのですから、乏しい明かりと不確かな知識しかない時代の人々ならなおさらでしょう。何かしら怪しい気配を感じることがあったとしたら、この怪しい気配に「妖怪」と

海に面する町、芦屋で暮らしていると、波打ち際で長時間過ごす機会があります。月の光が煌々と照らす星月夜でも、寄せては返す海面を見続けると水底に引き込まれそうな錯覚に襲われます。ましてや朔月や新月の頃ならなおさらです。現代の我々ですら闇や海に対して不安を持つのですから、乏しい明かりと不確かな知識しかない時代の人々ならなおさらでしょう。何かしら怪しい気配を感じることがあったとしたら、この怪しい気配に「妖怪」と

（芦屋歴史の里）

【特別展】

△とき 7月13日㈯～9月16日㈪
午前9時～午後5時

△入館料 中学生以上200円、小学生100円

【ワイヤラリートーク】

△対象 中学生以下
△参加者には、景品があります。

【ギャラリートーク】

△申し込み ①7月13日㈯～19日㈰
②8月10日㈯～16日㈮ ③8月31日㈯～9月6日㈮ 午前9時～午後5時に芦屋歴史の里（☎2222-2555）へ

△時間程度

△申し込み ①7月13日㈯～19日㈰
②8月10日㈯～16日㈮ ③8月31日㈯～9月6日㈮ 午前9時～午後5時に芦屋歴史の里（☎2222-2555）へ

△時間程度

△申し込み ①7月13日㈯～19日㈰
②8月10日㈯～16日㈮ ③8月31日㈯～9月6日㈮ 午前9時～午後5時に芦屋歴史の里（☎2222-2555）へ

【共通項目】

△とこり 芦屋歴史の里

△協力 湯本豪一記

念日本妖怪博物館
(三次ものだけミュージアム)

△特別協力 船の科学館「海の学びミュージアムサポート」

△問い合わせ 芦屋歴史の里（☎2222-2555）

船の科学館
海の学び
ミュージアム
サポート
Supported by
THE NIPPON FOUNDATION
海と日本 PROJECT

※月曜日は休館です。月曜日が祝日の場合は翌平日が休館です。

編集後記

▼芦屋釜の里開園記念茶会の取材に行きました。参加した皆さんには、庭園のゆったりとした雰囲気の中、季節に合わせた器の趣に触れ、飾られた花を愛でながら会話をしていました。こんな上品な時間を過ごせる場所がある芦屋町は、とても魅力的な町だと思います。夏休みは親子で楽しめるイベントがたくさんあるので、皆さんぜひ足を運んでみてください。（野中）

▼シティプロモーション係に配属され、初めて一人で取材に行ってきました。一眼レフのカメラを使って写真を撮つたことがなく、花にフォーカスし過ぎると人が目立たなくなり、人にフォーカスし過ぎてしまうと、花植えボランティアの写真と分からなくなってしまい、てこずりながら撮影しました。「まちの話題」に記事がありますので見てもらえたたら嬉しいです。（篠塚）

▼芦屋町の魅力。海で遊べて海辺のプールで泳げて花火大会や砂像展などのイベントも楽しめるところ。そんな芦屋の「楽しい」をまとめた観光PR動画ができました。ふるさと観光大使のコンバット満さんが主演です。裏表紙の2次元コードから動画のURLに行けるので見てくださいね。（那木）

